

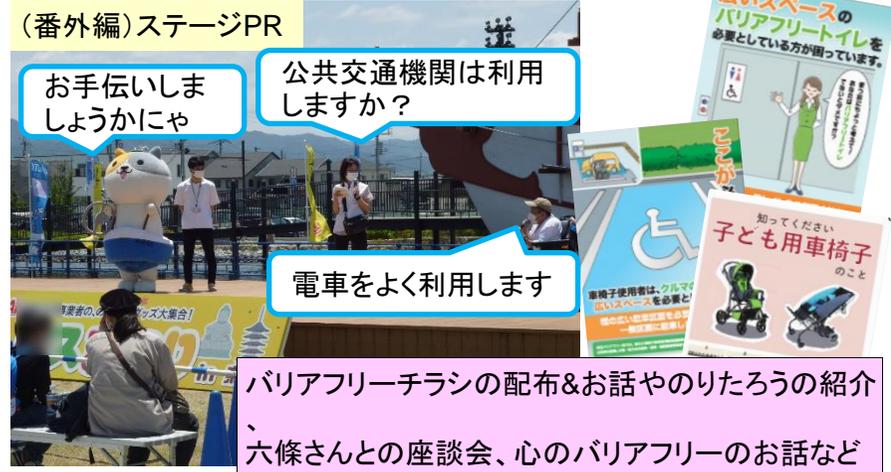
最近の主な取組について(事務局)

令和4年6月12日(日)奈良県奈良市にある平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」において、来場者(小学生の親子連れ)を対象にバリアフリー教室を開催しました。

バリアフリー教室では、バスのバリアフリーの工夫を聞いたり、本教室に協力頂いた障害当事者講師(車いす利用者)の六條さんと京都バス株式会社と実際に乗降デモを行い、六條さんにお話を伺いました。また、視覚障害の擬似・介助体験も行い、障害とお手伝いの必要性への理解を深めました。参加者からは、「**今度、目が悪い人を見つけたら手伝ってあげようと思った**」「**席を譲る**」など様々な感想が寄せられました！

※コロナ対策のため、マスク着用、検温、手指・器材の消毒を徹底して実施しました。

- 令和4年6月12日(日)
- ①12:30~13:10
 - ②14:00~14:40 の2回開催！
 - 挨拶
 - 心のバリアフリーについて
 - バスのバリアフリー設備の紹介
 - 車いすの乗降見学&お話
 - 視覚障害の疑似体験及び介助体験
 - のりたろうとの記念撮影



令和4年10月21日（金）大阪府高槻市にある市立芝谷中学校において、中学2年生約30名の生徒を対象にバリアフリー教室を開催しました。今回のバリアフリー教室は、いつもと毛色が異なり、学校の総合学習を利用したキャリア学習（※）の一環として当課も参加することになりました。

（※）キャリア学習とは様々な「企業からの『依頼』」を受けて、生徒自身が課題を見つけ、情報収集、整理・分析、まとめるといった、中期的に行う学習のこと。①企業からの依頼、②中間報告、③報告会の全3回に渡る。

当課からは、「**学校生活をおくる上で“みんな”にとって良い学校をつくってみよう（バリアフリーの学校）**」というお題とともに、バリアフリーについてのお話をしました。さらに“車いすユーザーの六條さん”にもお越いただき、車いすでの日常生活の紹介や実際に六條さんが利用している電動車いすに乗ってみるなどの体験を通して、車いす当事者への理解を深めました。また、当事者参画の意義・重要性を知ってもらうため、学校のバリアフリー点検を六條さんと一緒に行いました。

生徒達は6班に分かれ、このお話・体験を元に自身で学校のバリアフリーの課題や解決策等を中間報告としてまとめあげました。当課は中間報告の内容を元に、さらに理解を深めるための視点をフィードバックし、最終報告を待つこととなります。

◎第1回（R4.10.21）

- ・当課からの『依頼』発表
- ・六條さんのお話・体験
- ・学校のバリアフリー点検

◎第2回（R4.12）

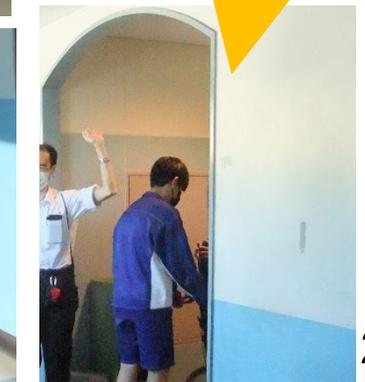
- ・中間報告を学校から書面で
もらい、フィードバック作業

◎第3回目（R5.2.3）

- ・最終報告等を予定



実際に学校のバリアフリー点検もしてみます。
（↑体育館横）
（↓トイレ）



廊下を走行中



バリアフリーの基本についてお話
（バリア、障害への理解、当事者参画など）



六條さんの車いすを
押してみます。
（電動車いすは
重いので動かない）



六條さんの電動車いすを
実際に乗って体験してみます



車いすの六條さんを持ち上げるには何人必要か身をもって体験。



令和4年12月、学校より生徒がとりまとめた中間報告を書面にていただき、当課で内容の確認を行いました。アンケートの実施やグラフにしての分析、そこからの課題・テーマ設定を自分たちで行い、解決策としてユニークなアイデアを盛り込んでいました。当課と六條さんから、良いところや足りないところの視点をフィードバックし、生徒達は最後の報告会に向けて最終調整に入ることになります。

生徒からの中間報告(一部抜粋)

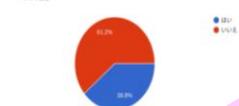
まずはじめに...
階段昇降機とは、その名の通り階段を昇り降りするための機械です。階段での昇り降りが難しい人の生活を上げる目的で設置されています。



私達道土交通省近畿運輸局グループの1組は、このような階段昇降機を芝谷中学校に取り入れることを望みます。

現在芝谷中学校で行っているキャリア学習で私達四人組は校内でのバリアフリーが十分か芝谷中学校の生徒一同にアンケートを行いました。

今の芝谷中学校のバリアフリーは十分だと思いますか?



1組 校内を車いすで調査

4組 導入済 事案の調査

バリアフリーな学校へ一歩でも

私達は、障がいがある人でもない人でも過ごしやすい、バリアフリーな学校について、2つのテーマを挙げました。

1つ目は **目が見えないと門に車が来たかわからない**ことです。

目が見えなかつたら門に車が来たか気づかず事故にあつてしまう危険性があります。そこで、私達は「**出庫注意灯**」をつけたいと考えました。



この「出庫注意灯」は、車が来ると音が鳴り、光るので耳が聞こえない人にも、目が見えない人にも役に立ちます。

2組 全ての人に有用な設備

5組 災害時のバリアを調査

テーマ: **透明な学校 発達、聴覚、視覚障がいひとのため**

必要な工夫

- ・学校兼福祉施設
- ・介護士が身近にいる
- ・すりガラスを使う一壁、クラスの境目など
- ・すりガラスは、透明なガラスの片面を金剛砂と金属ブラシで不透明に加工した板ガラスです。→ガラスの種類辞典

すりガラスの例



なにかが起ったときにより外から見やすくできるかつ中からはっきりみえないようにするための

3組 ユニークな発想

6組 運用面のバリアを調査

～芝谷中学校のバリアフリー～

芝谷中学校のバリアフリー...
一級品
数量 31000人
数量 34000人
数量 31000人
数量 34000人

～芝谷中学校のバリアフリー～
数量 31000人
数量 34000人
数量 31000人
数量 34000人



～芝谷中学校のバリアフリー～
数量 31000人
数量 34000人
数量 31000人
数量 34000人

災害時のバリアをテーマにしました。

災害時に生じるバリアとは?

津波などのアナウンスが聞こえなかつたり、何が起きているのかわからないということ。
↓
手足指にモニターをつけることで、聴覚障害者にもその時なにが起きているのか、どんな避難をすればいいのかなどがわかるようになる。放送もすることで視覚障害者にも伝わるようになる。

エレベーターが止まったときに逃げ道がない
↓
滑り台やスロープなどを作り、足が不自由な人でも一人でも逃げるようになる。または、足の不自由な人の教壇などを一階にするなどで逃げるときに迷わないことが出来る。

どこに逃げればいいのかわからない
↓
事前にどこを通ればいいのかや、危険な場所などを確認しておく。津波などの緊急のときはアナウンス、モニターなどで知らせる。目が見えない人には点字の防災マップを用意し、耳の不自由な人はボタンを押したら

学校の改善点

・トイレ

学校に於いては多くの来賓のトイレの設置による、普通トイレはスペースが狭く、車椅子が入らなかったりすることがあるそうです。



三年生のフロアの 隣のトイレのようにバリアフリーのトイレにする

班ごとの中間報告の特色(一部抜粋)

- 1組: 自分たちが車いすに乗って校内のバリアフリー確認や170名へのアンケート実施。
- 2組: 視覚障害(正門の安全性)・聴覚障害のバリア(可視化)に着目し実際は他の人にとっても有効なバリアフリーを提案。
- 3組: 身近なアイテム(すりガラスやナースコールなど)を学校で活用するというユニークなアイデア。
- 4組: 聴覚障がいのための文字表示機の提案、実際に導入している学校での効果まで調査。
- 5組: 災害時の"避難所"としての学校に着目し、バリアとそれに対する解決策を提案。
- 6組: 学校の設備(トイレ・EVなど)に着目し、運用面のバリアやハード面のバリア、それに対する解決策を提案。

当課からのフィードバック(一部)

→ソフト面についても考えてみよう(自分達は何が出来るかな?)

芝谷中学校のバリアフリー...
数量 31000人
数量 34000人
数量 31000人
数量 34000人



令和5年2月3日（金）に実施された最終報告会に参加致しました。中間報告にプラスα、もしくはガラッと内容を変えた班もあり、いずれもパワーアップした内容の取組発表をしてくれました。特に全ての班でソフト面について丁寧に考えており、当課からは講評と六條さんからの伝言をお話しました。全体を通して生徒からは「ハード面の改善だけでは解決しきれない部分をソフト面配慮で補っていくことが大切」「今回、障がい者への接し方でわかったことは声掛けの一つが大切だということ」といった感想が寄せられました。

生徒からの報告会資料（一部抜粋）

FFミラーを芝谷中学校につけるメリット

- ・フラットなのに凸ミラーとおなじように映る範囲が広い
- ・普通のミラーは手前があると自分の姿が移りませんがFFみらーは取り扱いが簡単！
- ・強度のあるプラスチックがついているから割れにくい

1組 廊下の角にFFミラーの具体的な設置方法、値段など、丁寧に調査

2組 出庫注意灯の運用面についても掘り下げ、ソフト面での解決策について発表

車が来るということはわかる

しかし... 😞
視覚障がいのある人はどこに行けばいいのかわからない！

⇒出庫注意灯が光っていたら、近くにいる人が安全な場所まで誘導

教室の目印にピクトグラムを設置

3組 中間報告に+ピクトグラムの設置の提案 様々な視点で必要なアイテムを発表

4組 緊急時のときトイレやエレベーター内にいた場合情報が伝わらない

運用する際の問題点

ポケットに入るくらいの大きさの棒

緊急時に振動して危険を知らせる。

5組 当事者の視点に立たないと気づきにくいスロープ前のグレーチングに着目

グレーチング

友達が援助することが大切。友達が車椅子の人と一緒にいけると、その人が車椅子が通るのに邪魔になってる人に声をかけたり、車椅子をおしてあげることで車椅子の人が安全に移動できるようになる。

6組 学校生活上で発生しうる事例（休み時間）の課題と解決策（ソフト面）について発表

代表2班が校長先生に対してプレゼンを行い、学校のバリアフリーに向けて調べた発表資料を手渡しました。



皆の発表を聞いて、校長先生は「出来るところからバリアを解決していきたい」とお話ししていました



- ・敷設された点字ブロック（警告ブロック）をコード化し、サーバーに登録した案内情報をスマホで聞くことができる「音声案内サービス」。同時に文字表示もされる。
- ・金沢で4年前導入され、その他 現在神戸で2年間の実証実験中。対象動線⇒ポータライナー医療センター駅から神戸アイセンター病院間。
- ・スマホの設定言語で案内情報を聞けるので、外国人にも有用。
- ・読み上げ速度は2.5倍速まで設定可。

- 《使い方も様々》コード化ブロックを読み込ませると、所在地の情報案内だけでなく・・・
- ③公衆トイレ前の配置を音声案内することができる。
 - ④入口受付案内であることが示され、更に当運営団体のHPに切り替わる。
 - ⑤と「足踏み式の消毒液です。」と案内される。

しゃべって案内 コード化点字ブロック

スマホアプリ「Walk&Mobile」で
AI音声情報案内サービスを提供できます
スマホをかざすと案内情報を聞くことができます



コード化点字ブロック
コードをスマホで読み取り、サーバーにあらかじめ登録した案内情報を日本語・外国語で読み上げ、表示する仕組みです。



↑実際に読み取り可能なサンプルです
(4方向からの読み取り対応)



4方向ごとに別々の案内情報

コード化点字ブロックの4方向の向きに応じた別々の案内情報を登録可能です。



直角三角形のマークは非常時の避難方向！

直角三角形のマークは、コードに方向識別の役割がありますが、避難経路に向けて、非常時の避難誘導に一役買います。



読み上げ速度はお好みで設定可能！

読み上げ速度はご利用者様がお好みに設定ができます。二次元コード、または「コード化点字ブロック」で検索！

専用スマホアプリ「Walk & Mobile」は無料です

iOS (App Store)



Android (Google Play)



①



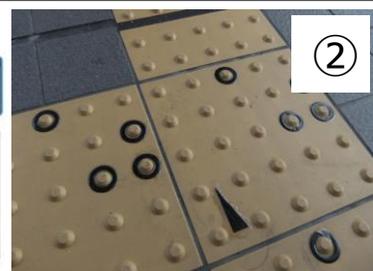
③



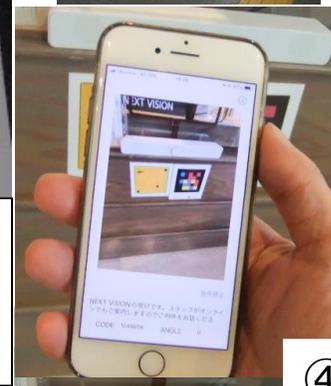
音声停止

ここは、男子トイレ前です。右は、1メートル先の壁に、男子トイレの触知案内板があり、案内板の左側がトイレの入口です。入口に入って、右側に、手前から、右側面に沿って、洗面器2台、小便器3台、和式個室、洋式個室があります。また、入口に入って、左側に、男子用の多目的トイレがあります。前方は、女子トイレ、ホーム階へのエレベーター方面です。左は、通路の壁です。

①ブロック1枚では落ち葉など障害物で読み取れないことも起こり得るため、複数枚の同コード化ブロックを読み取り、音声案内する。
②マークは樹脂製の接着剤で固定



②



④



⑤

日時 令和4年7月6日 13:20～

場所：京都鉄道博物館

展示内容：音と文字で案内できる多言語アナウンスサービス、スマートフォンで利用できるインターホンサービス、空きスペースを活用できる無人コンビニソリューション 他

SoundUD (sound universal design)とは？
→ヤマハが開発し提唱。SoundUD推進コンソーシアムにて350社団体と共通企画化をしている「音のユニバーサルデザイン化」を実現するテクノロジーの総称

1、スマホでインターホン



②専用機がなくてもスマートフォンで利用でき、どこでも係員と対話できるインターホンサービス。音声対話だけでなく、キーボード入力による文字のやり取りや自動翻訳機能で多言語化にも対応し、ユニバーサルデザインに配慮。外国人や聴覚障害者にも利用できる。また、電源不要のSoundUDトリガーボードを貼るだけで導入でき、大掛かりな工事もなく、導入や運用コストを大幅に削減できる。

③トリガーボードの位置がわからない視覚障害者は、案内音声付近で「おもてなしガイド」アプリを立ち上げると、サービスに自動で接続することもできる。



【概要】

①音の聞き取りづらい高齢者や障がい者、日本語のわからない外国人の方々向けのソリューションとして、これまで「多言語アナウンスシステム」と同じコンセプト、技術を応用して「スマホでインターホン」を開発。施設利用者のみならず施設管理者の利便性が高まる。

〔利用者〕

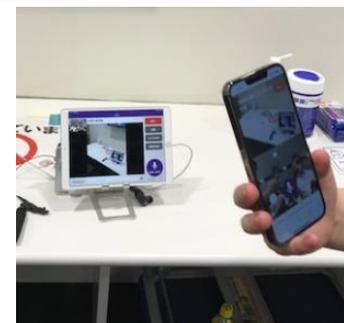


《ポイント！》
利用者がスマホを翳すだけで順
に駅係員に繋いでくれる。

〔駅係員〕



キーボード操作も可能



《ポイント！》
画面越しに利用者と
駅係員のやり取りが
可能。



日時 令和4年7月7日

場所：グランフロント大阪

参加者：聴覚障害当事者 他

【製品概要】

首にかけるデバイスと、スマホ地図をペアリングし、スマホ地図のナビゲーションを用いた道案内を骨伝導等（この時は振動）により伝え、自立的移動を促進するシステム。

【特徴】

- ・空間認知能力に苦手を感じる人（視空間認知障害など）や聴覚障害当事者にとって直感的な移動が可能となる。
- ・景色に集中し、周りに配慮しながら目的地に到着できる。（ながらスマホによる過集中等の課題解消）
- ・心理的相性や人的リソース（従来は人による直接的な支援が中心）、費用的の懸念の解消



右に曲がる必要がある場合、右肩のみ振動する。

- ◎実際に体験してみると、、、
左右・背面のどれか一箇所に振動が伝わり進むべき方向が分かる。
- ※視空間認知障害当事者にとって聴覚のみは左右判断も難しい事があるため、振動による伝達は有効。
- ※聴覚障害当事者にとっても有効であり汎用性が高い

出典：LOOVIC株式会社HP

<https://www.loovic.co.jp/product/>

近畿地方整備局 バリアフリー教室の実施

- 実際に身をもって体験することにより交通バリアフリーに対する理解を一層深め、道路空間の利便性・安全性のより一層の向上に努めていく事が重要と考え、近畿技術事務所構内に車いす体験、白杖・アイマスク体験ができる実物大の「交通バリアフリー比較体験コース」を構築しています。
- 令和4年度は11回実施し（府市6、大学・小中学校3、その他2）、延べ477名が体験。令和5年度も5月末現在、大阪府や大阪市職員、大学生、小学生延べ165名が体験。

【体験の様子(令和5年5月)】



車いす体験



白杖・アイマスク体験

近畿分科会の取組(関西国際空港リノベBF検討会)

経緯

★ 第1旅客ターミナルビルリノベーションの経緯
 国際線1,200万人、国内線1,300万人
 (1994年9月開港当初の計画取扱能力)



国際線2,060万人、国内線400万人(2018年度)

計画と実態の
 ギャップ解消が必要

★ 検討会の実施時期 : 令和4年12月
 ・ フェーズ2
 (検討会 1回)
 <以後、各フェーズごとに現地確認会を実施>

★ 参加者 : 近畿分科会委員
 + (状況に応じて)委員外の学識者・障害当事者

検討会メンバー

		委員(役職・氏名)	
学識者	公立大学法人 大阪市立大学大学院工学研究科	教授	内田 敬
	国立大学法人 和歌山大学経済学部	教授	辻本 勝久
	大阪大学	名誉教授	新田 保次
	東北福祉大学 総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科	教授	石塚 裕子
障害者団体等	特定非営利活動法人 滋賀県盲聴覚障害者協会	理事長	前野 奨
	公益社団法人 京都府視覚障害者協会	主席副会長	岡田 多栄子
	社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会	常務理事	小尾 隆一
	NPO法人チャラふ (社会福祉法人 ぽぽんがぽん)	理事	六條 友聡
	特定非営利活動法人 DFI日本会議 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議 (特定非営利活動法人 自立生活センターある)	運営委員	鈴木 千春
	特定非営利活動法人 兵庫県難聴者福祉協会	バリアフリー部長	渡部 安世
	特定非営利活動法人 WACわかやま	副理事長	神徳 佳子
アクセシ関西ネットワーク		吉川ひとみ	
新設チーム企画	代表	塩安 九十九	
施設設置管理者等	関西鉄道協会	専務理事	南條 正幸
	近畿バス団体協議会	一般社団法人 大阪バス協会 常務理事	藤本 和佳
	近畿/ハイヤータクシー協議会	理事	黒田 唯雄
	近畿旅客船協会	事務局長	明彦 茂樹
	神戸旅客船協会	専務理事	井上 誠
	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部 企画課	地域共生室長	井上 典彦
一般社団法人 全国空港事業者協会	事務局長	南 忠行	
自治体	大阪府 都市整備部 住宅建築局 建築環境課	建築環境課長	馬場 博之
	京都府 建設交通部 交通政策課	交通政策課長	笹井 淳
	兵庫県 まちづくり部 都市政策課	都市政策課長	松井 雅伸
	滋賀県 土木交通部交通戦略課	土木交通部管理監 (交通戦略課長事務取扱)	越後 敏夫
	奈良県 県土マネジメント部 道路マネジメント課	道路マネジメント課長	植谷 秀夫
	和歌山県 企画部 地域振興局 総合交通政策課	総合交通政策課長	狭間 裕司
	大阪市 計画調整局計画部交通政策課	広域交通企画担当課長	井上 智仁
	堺市 健康福祉局 生活福祉部 地域共生推進課	地域共生推進課長	阿加井 博
	京都市 都市計画局 歩くまち京都推進室	歩くまち京都推進室長	大岸 将志
	神戸市 福祉局 障害福祉課	課長(バリアフリー担当)	岡本 和久
オブ	近畿大学	名誉教授	三星 昭宏
	DFI 日本会議		尾上 浩二
	近畿大学	准教授	柳原 崇男

概要

★ 設計の基本コンセプト (<https://www.youtube.com/watch?v=81tDFjAIQFA>)

- ・ 国際線キャパシティー拡大 : 国際線南北一体運用可能なレイアウトに (面積25%アップ、国際線使用可能スポット増加)
- ・ エアサイドエリアの充実 : 出発までの快適な時間をより多く
- ・ 旅客体験の向上 : より魅力的でワクワクする空港体験を提供



★ 整備スケジュール

- ・ 2020年度 フェーズ0(設計)
- ・ 2021年度 ~ 2022年度 フェーズ1
(新・国内線エリア増築・改修、国際線到着動線の増築、税関レイアウト変更)
- ・ 2022年度 ~ 2023年度 フェーズ2
(ランドサイド商業エリア、国際エアサイドエリア(中央)、出国審査場の新設)
- ・ 2023年度 ~ 2024年度 フェーズ3
(国際ラウンジエリア、新・入国審査場の新設、保安検査場エリア増築)



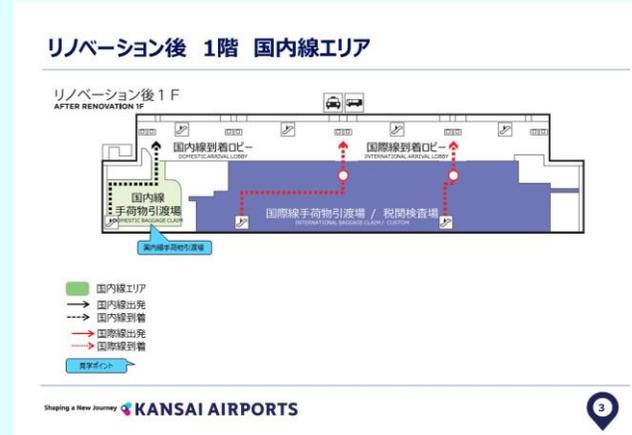
大阪・関西万博

- ・ 2025年度 ~ 2026年度 フェーズ4(国際商業エリア(南・北)新設)

現地見学会(令和4年9月26日実施)

関西国際空港第1ターミナルビルリノベーション工事
バリアフリー検討会
見学会

Shaping a New Journey
KANSAI AIRPORTS



【見学箇所】

- ・新国内保安検査場
- ・新国内線エリア
- ・新国内線手荷物受取場

フェーズ1工事の実施状況を見学することで、新たな課題がないか、確認をする。

- 本日のルート(60分)
- 国内線保安検査場 ※写真撮影不可
- ↓
- カムダウンクールダウン
- ↓
- 商業エリア ※写真撮影不可
- ↓
- トイレ
- ↓
- エレベーター
- ↓
- 国内線手荷物受取場

見学箇所の見どころ

テーマ	対応
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの機能分散対応 ・一般トイレに手動車椅子で利用できる個室の設置 ・一般トイレに車椅子対応の洗面台の設置 ・個室および洗面にフラッシュライトの設置 ・トイレ扉の色を変えて、使用中かどうか分かりやすく工夫 ・トイレ入り口に音声案内の設置(工事中)
エレベーター・エスカレーター	<ul style="list-style-type: none"> ・主要動線のエレベーターは、構造上、15人乗り又は水圧式エレベーター(11人乗り最大)となるため2台設置 ・エレベーター内に二次元バーコードによる聴覚障害者向けの緊急対応システム、体制を構築 ・エスカレーターの音声案内を設置 ・主要動線上に1台しか設置できない箇所は26人乗りエレベーターを設置(フェーズ2)
カムダウンクールダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・保安検査場の前後に設置(2か所) ・付き添いの方もお入りいただけるサイズ ・2名がけのソファを設置(突っ伏せるような肘掛けつき) ・車いすの方も通れるよう入口幅を確保 ※バージョンは10/26(Phase1オープン)にあわせて変更
サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすいコントラスト、大きさ ・ユニバーサルデザインフォントを採用 ・飛行機の乗降の誘導と施設案内を色分け(誘導:黄色、施設案内:青色)

神戸運輸監理部では、「真の共生社会の実現」に向け、バリアフリーへの理解を深めるとともに、誰もが高齢者や障害者に対して「お手伝いしましょうか」と自然に声をかけ、サポートできる「心のバリアフリー」の推進を目的に、兵庫県内の小中学校やイベント、旅客船の乗組員研修において、車いす自走・介助体験、視覚障害疑似・介助体験、等を行うバリアフリー教室に取り組んでいます。また、職員対象バリアフリー研修については、聴覚障害当事者を講師とし、当事者視点からの講演とコミュニケーションの取り方についての体験学習を行い、当事者参画の必要性について理解を深めるなど、日常業務ですぐに活用できる研修に取り組んでいます。

なお、マスタープラン・基本構想作成促進の取り組みは、近畿運輸局が兵庫県内自治体に働きかける際、連携して取り組むこととしています。

バリアフリー教室の開催 (小・中学校 一般)

職員対象バリアフリー研修 (障害当事者視点からの講演等)

当事者参画にかかるとの取り組み



全体学習(講義)
(神南中学校)

車いす使用者
疑似体験
旅客船への乗船
(坊勢中学校)



○研修の内容

聴覚障害当事者からみた「聞こえる人と聞こえない人、聞こえにくい人とのコミュニケーション」をテーマに開催。実際に携帯コミュニケーションアプリを使って質問や意見交換などのやりとりをするなど、実践で活かせる内容の研修を行い、当事者への理解を深めた。



「心のバリアフリー」にかかるソフト対策として、小中学校における当事者(車いす使用者、視覚障害者)参画によるバリアフリー教室をはじめ、旅客船事業者の従業員を対象とした研修を実施。当事者から観光客目線でのよりよいサポート体制への助言をいただくとともに、従業員を対象とした車いす使用者・介助者体験を行い、ユニバーサルツールの普及・定着をはかる取り組みを行った。

<令和4年度 神戸運輸監理部バリアフリー教室実施状況>

	場 所	日 程	対象者	人数
姫路市	坊勢中学校	令和 4年 9月 2日	中学生	32名
姫路市	神南中学校	令和 4年 9月 6日 令和 4年 9月 27日	中学生	57名
神戸市	しあわせの村	令和 4年 10月 2日	一般	約200名
姫路市	船場小学校※	令和 4年 11月 24日	小学生	66名

※は近畿運輸局と共催

○ バリアフリー教室参加者の感想 ○

<坊勢中学校>

- ・教わったことを活かし困ってる人の手助けをしたい
- ・当事者の方から明るく話しかけられてうれしかった
- ・介助をするときは声かけが大切だと学んだ

<神南中学校>

- ・学んだことを忘れず活用していきたい
- ・声かけや介助の大切さを学んだ
- ・バリアフリーはすごいと思った